

2026年5月の生産・出荷実績に関する石油化学工業協会コメント

令和8年6月18日

2月末のホルムズ海峡の実質封鎖以来、当協会の各会員企業においては、国内石油精製からのナフサ調達の継続、中東以外からのナフサ調達の拡大及び製品在庫の活用により、石油化学製品の供給継続に全力を尽くしている。

5月の生産・出荷実績は、ナフサクラッカー等における定修の集中もあり、エチレン生産量は前年同月比で減少であったものの、国内石油精製から供給される国産ナフサの一定量確保に加え、会員会社による継続的なナフサの代替調達の確保が進んだことで、前月比の生産量は約15%増加している。主要石油化学製品であるポリエチレンやポリプロピレン等においても、一部で製造プラントにおける定期修理の影響など製品毎の差はあるものの、エチレン同様に前月比の生産量は増加している。

また、国内出荷においては、大型連休による出荷日数が前月比▲14%、前年同月比▲10%となるなど季節的要因による減少が前提にある中で、主要石油化学製品では概ねこの減少幅を上回る出荷がなされているところであり、全体として供給は維持できている。

在庫の状況についても、ポリエチレンやポリプロピレンにおいては国内需要の3か月以上の水準を5月末においても引き続き維持しており、直ちに供給困難となる状況ではないと認識している。

政府からもナフサ由来の化学製品の供給は年度を超えて継続できる見込とされており、石油化学製品の供給は、6月以降も平年並みの供給が見込まれており、引き続き需要を満たすべく安定供給を維持していく。

当協会としては、引き続き、国及び会員企業と密接に連携しつつ関連情報収集や必要な措置の徹底など安定供給に必要な対応を行っていくこととしている。

最後に、当協会としては、事態が一刻も早く収束し、ペルシャ湾地域における船舶の安全航行が回復することを強く求めるものである。

【本件に関するお問合せ】

石油化学工業協会

志村、武井 TEL 03-3297-2019

2026年5月実績概要（メモ）

（2026. 6. 18）

定修等による減産が和らぎ、一部の合成樹脂、化成品、合成ゴムに加え、芳香族製品でも増産が進む。

1. 生産動向

イ) エチレン 325, 100トン

前月比 +14.6% (+ 41,400トン)
 前年同月比 ▲22.0% (▲ 91,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	+ 9.8%	▲ 10.5%
能力増減	-	-
稼働率変動	+ 1.5%	▲ 11.5%
生産増減率	+14.6%	▲ 22.0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月67.3% → 当月68.1% ← 前年同月76.1%

定修プラント：前月4社4プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数増加に加え、定修規模差、稼働率要因からLDPE、PS、SM、MMAモノマー、EO、EG、アセトアルデヒド、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がプラス。HDPE、塩ビモノマーなどの3品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、HDPE、PP、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの16品目がマイナス。ANのみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加があるとともに、LDPE、PP、PSは定修規模の縮小や稼働率要因からプラス、HDPEは定修規模の増加からマイナスとなった。

前年比は、オレフィンの供給減少が続いていることに加え定修規模差、稼働率要因等からLDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、暮らし向き、耐久消費財の購入の面でも前月に比べ改善がみられるも、消費者物価も上昇が進んでおり、全体のマインドとしては弱含みが続いている。国内の生産活動は、5月の予測では生産用機械、輸送機械、電子部品・デバイス等で上昇が見られており、トレンドとしても弱気と見る面が前月と比べて薄らぎつつある。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、ゴールデンウィークに伴うユーザー側の稼働日数の減少を主因として、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナス。前年比でも同様にユーザー側の調達の減少もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

分野別の出荷状況は、前年比では、フィルム等の包装材分野は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

包材以外の出荷分野では、前年比で、LDPEの射出成形分野、パイプ分野がプラス。HDPEは繊維分野が前年並みとなるもそのほかの分野ではマイナス。PPは射出成形分野の工業部品、繊維分野のみがプラス、PSも雑貨・産業分野に限ってプラスとなった。

ハ) 輸出

アジア域内では、中旬以降の原油相場が弱基調で推移する中、先安観から需要家側では様子見が続いている。

前月比でHDPE、PSはプラス、LDPE、PPはマイナス。前年比はLDPE、HDPEがプラスだが、PP、PSはマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP、PSはやや増加し、HDPEは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPEで僅かに低下、PPは横這い、PSは上昇した。

在庫水準は、HDPEは高め、LDPE、PPは適正水準、PSはほぼ適正となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LDPE	+ 15,700	3.3	3.2
HDPE	▲ 11,200	3.6	3.4
P P	+ 4,100	3.0	3.0
P S	+ 4,500	1.5	1.7

以上